

前橋市立前橋高等学校

めぶく

地域活性化プロジェクト




探究通信
めぶく12号
R5.1.6
2学年まとめ号

高校生模擬議会を実施

2年生全員が取り組む、探究学習の集大成



2クラスずつ3回にわたり実施し、議長と議員を生徒が務める

12月16日(金)、新しくなった前橋市議会議場にて「高校生模擬議会」を実施した。生徒たちは前橋市長

をはじめ、市教育長、市役所におけるそれぞれの部長の方々に直接、今までの探究学習で考え、練り上げた



地域活性化のための提言、質問を行ってきた。

第1回には既存のアプリ「G-WALK+」に機能を追加し、市民の健康意識を高め、市内の経済活動を活発にすることについての提案や中心商店街を活性化させるためのアイデアなどについて答弁を求めた。

第2回には大学新卒入社者の3年以内の離職率の高さに着目したインターンシップ活動や地産地消と持続性

本校の探究学習は進路指導の一つである。当然、学力の3要素を伸長する目的があるわけだが、まず生徒に気づかせたいのは「自分自身が地域を作っている一人」だということだ。▽「はたらく」の語源は「傍を築にすること」だという。やりたいことがない、稼げれば何でも、という声を聞か、"傍"を"地域"とし、そこに住む人を築にする、楽しくするという視点を持てば、働く意味が見えてくるのではないかと(む)

探究学習のプロセスを学んだ秋

高校生模擬議会までの軌跡

を意識した街おこしなどについて提案がなされた。

第3回には前橋駅前前の施設整備や「前橋バスポート」や「チャレスタ前橋」などと銘打ち、前橋に住んでいるからこそこのメリットを感じるからこのメリットを感じられるキャンペーンについて提案した。また、地元のプロスポーツチームと連携した部活動改革など、これからの担う子どもたちへの教育の充実と地元愛を育む、明るい未来を思い描く提案、質問が目立った。



地元メディアの取材を受ける生徒

10月6日(木)に高崎商科大学の職員の方々と学生のご協力をいただき、前橋市活性化につながるアイデア出し「ブレインストーミング」を行い、「高校生模擬議会」を成功させるためのスタートを切った。毎度お馴染みのプレストカードを用い、アイデアを出しやすい環境づくりを行った後、「前橋があるランキングで1位に。さて何のランキング?」のお題のもと、活発なアイデアを飛び交わせた。



3会場にて班活動形式で行った

10月20日(木)からは、模擬市長候補となる、共愛学園前橋国際大学の学生6

名が各クラスに配属され、生徒たちのアイデアに視点を与え(1組は過疎化対策など「地域を元気に」、2組は社会福祉など「健康で安全な暮らし」、3組は「多様な人々の共生」、4組は「暮らしや仕事を支える技術」、5組は「持続可能な社会」、6組は教育改革など「人生の充実」)、ともにマニフェスト作成を行った。



議員のレクチャーを受けた

生徒たちが「模擬前橋市長選挙」(そして「高校生模擬議会」)で提案する、

地域課題を解決するためのマニフェストづくりのご支援をいただいた。各クラスが考えたアイデアに対して、既にある事例や実現可能性などに触れ、マニフェストを強固なものにしていくためのご助言をいただいた。

市長選



12月1日(木)に前橋市選挙管理委員会をはじめとする方々にご協力いただき、「模擬前橋市長選挙」を行った。これは各クラスが作り上げた3つのマニフェストを掲げ、市長候補に扮して出馬した学生を当選させるクラス対抗戦である。生徒たちは当日の応援演説や視覚に訴えるスライド、選挙ポスターやPR動画などを協働して作成した。「模擬議会」の準備も同時に行い、課題設定情報収集、整理・分析、まとめ・表現という探究をやり遂げた。

